ダルニー通信

63
2011
秋号

特集

寄り添う喜び
広がる未来

- 藤沢実果さんのカンボジア報告会
- 福岡にダルニー連絡会発足
- 書き損じハガキで支援する企業
  ＪＸ日鉱日石エネルギー

ダルニー奨学金

地域発展に貢献する人材の育成を目的に、経済的貧困で基礎教育を受けられない子どもたちに奨学金を提供する事業。現在、タイ（東北地方20県）、ラオス（中南部4県）、カンボジア（1県）の3かこで実施しています。1人1万円で子どもが1年間学校に通うことができ、支援している子どもの証書と写真が現地から郵送される「1対1の顔の見える支援」が特長です。

加藤さんとカイ

寄り添う喜び、

支援することで喜び その支援で将来を

加藤光逞

「今度は私が恩返しをする番です」

1993年のタイ研修旅行に参加した加藤さんは、支援する中1のカイに会って以来、文通を続けました。2001年に文通が途切れたのですが、2007年にカイから再び手紙が届きました。その手紙にはカイがタイ南部で会社員として働き、結婚し、子どもを出産したことが書かれていました。

文通が再開されて何通目かの手紙にカイの決意が書かれていて、加藤さんは驚きました。タイ南部で起こるテロ事件対策の一環としてタイ政府が看護師増員事業をスタートし、1歳7カ月になる子どもがいるカイがそれに応募したからです。「自分の人生にまた光が当たって、新しい一歩を踏み出せたという気持ちでいっぱいです。…自分が支援を受けたから、今度は恩返しです。このようなことができるのも教育を受けたからこそです。そして日本のお父さん（＝加藤さん）がずっとタイの子どもを支援していることが、私のこうした決意・行動の励みになっています」。

夫も賛成してくれ、カイは子どもを実家に預けてバンコクに4年間、単身赴任しました。高校や大学を出たばかりの生徒と机を並べて勉強するカイにとって、特に英語は大きなハンディキャップでしたが、必死に勉強して卒業時は看護学校の卒業生数百名の中で2番の成績で表彰されました。

カイはすでに自宅があるタイ南部のナラティワート県の病院で働いています。看護学校の卒業式に参加した加藤さんの目に涙が光りました。

卒業後の奨学生の人生が いつも気になっています

「私は1993年から現在まで奨学生を26人支援してきました。タイ17人、ラオス4人、カンボジア5人です。私がいつも気にしているのは、支援した後の子どもたちの人生です。タイの奨学生が多いのは、手紙のやり取りが可能で、手紙で奨学金をもらった後の彼らの人生を知り、場合によっては更に応援することができるからです。手紙はタイ語で書かれる場合が多く、絶えずアンテナを張って日本語に訳してもらう人を探してきました。タイ料理オーナー、タイ留学生、知人、他人等です。中学校時代から手紙でカイをいつも励ましてきました。本人もそれに応えてくれ、立派に成長してくれました。こんなに嬉しいことはありません」

＊民際センターでも手紙の和訳を受け付けています。

校舎建設

ラオスでは2割の村に学校がありません。学校があっても、建てっぱなしの劣悪な校舎が少なくありません。民際センターは1998年以来、28校の校舎を建てました（建設中は5校）。建築家の加藤隆久氏の設計で、ラオスの気候・環境条件を考慮し、現地の人の協力や現地の材料の利用、耐久性を考え、補修可能で長く利用できる設計になっています。2010年度には日本建築学会賞（業績）を受賞しました。

一般的なラオスの校舎

校舎の前で子どもたちと交流

パクトン校

広がる未来

を得ている支援者 広げる子どもたち

「板倉ラオスの会」代表　**栗原容子**

交流とともに私たちの豊かさ、幸福を振り返る旅行

「校舎完成の前年、1998年に現地を訪問しましたが、校舎建設に向かって村が1つになっているように感じました。その時以来、隔年でこれまで6回パクトン村を訪問し、村に泊まって村人と交流をしています。訪問・再会すると手を取り合い、わずか2泊3日の滞在なのにお別れする時は涙を流してしまいます。日本での日常生活では、これほど心を動かされることはないのですが…。

村に生きる子どもたちは物質的には恵まれていませんが、家族と協力し合って元気に暮らしています。パクトン村を訪問するたびに、幸せとは何か、豊かさとは何かを考えさせられます。交流・支援とともに私たちのライフスタイルをふり返る旅。この活動や旅行を通じて、私も成長させてもらっていると実感しています」

ミニ集会や茶話会に出向き、繰り返し説明

多くの学生に海外経験させたいと考えていた板倉町は、民際センターの協力を得て中学生の短期海外留学プロジェクトを実施した関係で、民際センターがタイで奨学金事業をスタートした当初からダルニー奨学金を支援してきました。民際センターが支援をラオスに広げ、校舎建設事業をスタートすると聞き、そこを拠点に村人と交流できることに魅力を感じ、板倉町も校舎建設を支援することにしました。

とはいえ、1棟700万円。町内の支援者からどのように寄付を募るのかが大きなポイントになりました。そこで、1997年に「ラオスに小学校を創る会」を発足させ、この活動に理解と賛同を示してくれる人を1人でも多く得ることを目的に「ラオスの子どもたちの教育状況ファイル」を作ってミニ集会や茶話会を積極的に出向き、何度も何度も丁寧に説明しました。1口10万円よりも1口1万円で10人の方からご寄付をいただく――そんな草の根の募金活動を展開しました。結果、寄付をいただいた方は約500名。1999年にラオス・パクトン村に校舎が完成しました。

募金を通して会のメンバーは「素人の私たちでもやればできる」と自信を深め、次のステップに、つまり、村人との定期的な交流に進みました。

図書事業

ラオスの首都ビエンチャンには本屋が数軒しかありません。まして農村部では教科書以外の本を購入することは不可能です。本は想像力、創造力、思考力を養うのに欠かせないものです。そこで民際センターでは、1箱約150冊が入った、持ち運び便利な図書セットを提供しています。絵本・コミックスから英語の本、小説まで本のジャンルは多岐に渡っています。図書箱の両面には、英語とラオス語で寄付者の名前が記載されます。

東海林さんが贈呈した図書セットから
本を借りて読む子どもたち

生れてはじめて「面白い」と感じる たくさんの本が目の前に

2004年にラオス南部の村の学校を訪れたある支援者グループは、こんな光景を目撃しました。校庭で行われた図書セット贈呈式後、教室に戻った生徒を前に先生が教壇の机の上に図書箱を置き、それを開いて本の後ろに差し込んでいる図書カードを示しながら、本の借り方を説明しました。教科書以外の本を見たことがない生徒は、表紙に絵や写真が掲載されている150冊以上の本を目の前にして、先生の説明も上の空、目が本にくぎ付けでした。そして先生の説明が終わるや否や一斉に本に突進しました。このシーンを見た日本人支援者からは思わず「すごいねえ!!」との声が。

同じく2004年に図書を贈呈されたある学校の校長先生によれば、図書が贈呈されるまで生徒の学習意欲は低かったそうですが、「図書の贈呈で本を読み始めた生徒の成績が上がり始めた」と読書の効果に驚いていました。これを機に図書箱の本を教科書として使用する先生も増えたそうです。また、別の小学校の先生は「図書セットが届いて以来、授業終了後に家に帰らず学校に残って本を読む子が増え、その生徒数は月500人以上になっている」と話しています。

東海林　洋

今度は誰かを助ける番 「図書セット贈呈」でお返し

「『…今日、私たちがこの場にいられるのは誰かが、何かが私たちを助けてくれたからです。…これからは私たちが誰かを助ける番です。それが教育というものです。それこそが人類の基本を成すものです。私は心の底からそう信じています(一同拍手)』。2010年春のハーバード大卒業式での卒業生代表のスピーチの一部です。岩波新書『アメリカン・デモクラシーの逆説』の著者の後書から借りました。日頃の私の想い、即ち＜教育とは、自分は誰かの助けでこの世に存在し、その助けを誰かに返すことで人間社会が成り立っている、ということに気付かせることではないのか、それが『教育は人類の基本』ということではないのか＞を代弁してくれていると感じたからです。日本の教育界の現状に退職教員である私は絶望感を持っていました。

そんな折、民際センターのHPを見つけ、その理念に共感し、自分の『出来る範囲』の『お返し』として図書事業を選びました。この程度なら継続できそうですから。私にこのような機会を与えてくれたラオスの子どもたちと民際センターに感謝しています」

世界1周バドラー、藤沢実果さんがカンボジアの奨学金授与式に参加

「奨学金は生徒の行動を変えるのです」

――（株）毎日エデュケーションが支援する奨学生に現地でインタビュー――

藤沢実果さん

奨学生たちと

奨学金授与式の様子

Bado奨学生とは、ソーシャルビジネスの会社ユナイテッド・ピープル（株）が「社会のチェンジメーカーの卵を育てる」ことを目的に若手旅行者を募集。選ばれた人（バドラー）は基本資金30万円を得て世界1周の旅に出ます。また、旅行者を応援したくなったら、誰でも旅行のスポンサーになることができます。

藤沢さんは2010年度バドラーに当選。昨年8月から世界一周の旅に出、今年7月はじめに帰国しました。旅行中、毎日エデュケーションがスポンサーになり、カンボジアを訪問して奨学金授与式に参加し、同社が支援するカンボジアのダルニー奨学生にインタビューしました。そして7月23日（土）、同社主催で藤沢さんの帰国報告会が開催。カンボジアの報告をした藤沢さんは「奨学金を受けた子どもは、成績と共に行動がとても良くなると知って驚きました」「奨学金授与式で子どもたちは『ありがとう』と何度も何度も顔の前で両手を重ねるのです」「カンボジア事務局スタッフの方が支援者に送る写真を撮る際、顔の上げ下げなど、1人ひとり細心の注意を払っている様子を見て、この団体は信頼できる、応援しようと思いました」と報告。約30人の参加者も熱心に耳を傾けていました。なお、千円の参加費はすべてカンボジア奨学金にあてられ、卒業までの3年間小学校に通える奨学金になりました。

twitter @mika_fujisawa

ダルニープレート活用キャンペーン

第2弾

100円玉100個集めて、ラオス・カンボジア・タイの子ども1人が1年間学校に通える新しいカタチの募金プレートです。

おかげさまで、多くの方々からダルニー・プレートを使っての募金活動の申込をいただきました。お店で使う、学生寮で使うなど、ユニークな活用方法がいろいろ。好評につき、無料進呈のキャンペーン第２弾を実施しますので、こぞってお申込みください。

お申込みはＥメール・電話・ＦＡＸで

2011年度通常理事会及び評議員会を開催

2011年度第1回理事会及び評議員会を開催し、以下の3つの議題について報告・承認されました。
1、2010年度事業報告
2、2010年度会計報告
3、定款変更について

■理事長あいさつ

（冒頭、東日本大震災の被災者の方々および昨年逝去された三谷誠一監事、森本勝諮問委員に対し黙祷をおこない、被災地域の復興を全員で祈願）

2010年度もご支援ご協力をお寄せくださった皆様に心よりお礼申し上げます。

法人化2年目の2010年度は、国内の景気低迷のうえに東日本大震災が重なり、支援継続及び新規開拓は前年度に増して一層厳しい状況でした。2011年度は入金・管理システムのIT化（銀行の口座引落、クレジットカード決済等）を進め、新しい寄付制度の確立を図ります。と同時に事業の集中と選択を実施し、費用対効果の向上を図ります。この困難な状況に対し事務局一丸となって精進努力する覚悟ですので、皆様にも一層のご理解ご協力を賜りますようお願いいたします。

1. 2010年度事業報告

①**奨学金事業**（タイ7, 031 名・ラオス6, 344 名・カンボジア1, 386名＝14, 761名に奨学金支援）
②**ラオス校舎建設事業**（2校完成、5校建設中）
③**図書事業**（ラオス国内の小学校に369の図書セット寄贈）
④**ブーンライ保健衛生事業**（ラオス国内の22校で健康診断を実施）
⑤**ラオス高校教師修士養成留学事業**（4名が新たにタイへ留学し、現在14名が留学中）
⑥**ラオス少数民族教師養成事業**（24名の学生に奨学金支援）
⑦**そろばん事業**（ラオス国内の15の小学校でそろばんの教師研修、教材・テキスト提供）
⑧**OSOP事業**（タイ17校・ラオス21校で1校1事業を支援）
⑨**旅行事業**（ラオスで実施、56名が参加）
⑩**国内活動支援事業**（第10回全国ドナー連絡会会議「ダルニー・フェスティバル2010」を東京で開催。約120名が参加）
⑪**タイ王国奨学金事業**（委託）

バンコク、チェンマイで実施している奨学金事業のサポート。奨学生数：中学生74名、高校生34名。

2. 2010年度会計報告

同封資料をご覧ください。

3. 定款変更について

事務局の移転（8月8日）に伴い定款の変更手続きを行う。
新住所：〒162-0801 新宿区山吹町337
江戸川橋東誠ビル5階

＊詳細は裏表紙をご覧ください。

理事コメント

平野健一郎 理事

半世紀の間、大学で国境を越えた交流の研究・教育に専念してきた。1人ひとりの発展も村や国の発展も教育が基本という理念のもと、タイ・ラオス・カンボジアで教育支援事業を実践してきた。これからも支援者の皆さんと一緒に、民際の教育支援事業を広め、深めていきたい。

阿部汎克 理事

東日本大震災を機に、あらためて日本のありようを見つめ直す必要があると思う。その際、東南アジアとの交流はとても大事だ。民際センターは東南アジアでの支援活動や交流に大きな実績をあげ、確固としたネットワークを築いている。教育支援を通じて、お互いに学び合うという側面も大事にしたい。

コンピューター関連ボランティアの募集

＊お手伝い頂く業務内容

民際が保有する奨学金管理等に係るシステムの運用、保守、改修及び次期システム構築。

＊希望する精通している分野

- Webベースシステム、データベースシステムの設計、開発経験がある方
- MySQL、Access等データベースソフトウェアに精通した方

東京事務所は発足当時にボランティアによって構築されたシステムを現在も使用していますが、多様な入金方法を設けるため、本格的なシステム再構築を決定。ICT推進化プロジェクトを発足させ、その一環として、タイのICTチームと連携して奨学金管理に係る次期システム構築を進めています。東京事務所の主軸は、当時のボランティアの一人、神村さん（ICTコンサルタント）です。

そこで、上記の通りのボランティアを募集します。次期システム開発にご協力いただける方は、神村さんあるいは理事長の秋尾までメールにてご連絡ください。東京地域の方は、説明会を持ちたいと思います。遠方の方はスカイプ等での会合を考えております。

理事長メール／
akio.terumasa
@minsai.org
神村メール／
masaki.kamimura
@minsai.org

「誰にでも、いつからでも、簡単にできる」ボランティア活動として定着

＊本社ビルの各階にオリジナルのポスターと収集箱＊

弊社は、2010年7月、新日本石油、新日本石油精製およびジャパンエナジーの統合・再編により発足しました。ＪＸグループ行動指針のひとつである『社会との共生』、『地球環境との調和』を実現するため、積極的に社会貢献活動を推進し、持続可能な社会の発展に貢献していきたいと考えています。

書き損じハガキや未使用テレカなどの収集によるタイ・ラオス奨学生の支援活動は、統合前の新日本石油・ジャパンエナジー時代から実施していました。新会社においても、「誰にでもできて、いつからでも、簡単にできる」ボランティア活動のひとつとして、また、支援する子どもたちの写真と将来の夢が書いてあるプロフィールが届くため、「顔が見える」国際協力を実感できる活動として、継続して実施しています。

本活動は、書き損じ年賀ハガキが出る時期に収集キャンペーンとして行います。本社ビルの各階にオリジナルのポスターと収集箱を置くほか、全国の事業所においても、それぞれ収集活動を行っています。キャンペーン開始前には、社内イントラで告知し、キャンペーン期間中は毎週、集まった枚数などの実績を報告します。また、子どもたちの写真が送られてくると、ENEOSの奨学生としてイントラや社内報で紹介しています。このような活動を実施した結果、2011年度はタイ奨学生3人分の奨学金（1人3年間分）に相当するハガキが集まりました。これまでの奨学生と合計すると2011年度は20名のENEOSの奨学生を支援することになりました。

1年に1回送られてくる写真で子どもたちの成長ぶりを知ることができ、それが支援のやり甲斐に通じています。これからも支援を続けて行く予定です。

書き損じハガキ等で国際協力

書き損じはがきや未使用切手・テレカ、古本や使用済みインクカートリッジなどを集めて民際センターの事務所までお送りください！少数でも結構です！換金後、奨学金など現地支援に活用させていただきます。

送り先：〒162-0801
東京都新宿区山吹町337
江戸川橋東誠ビル5Ｆ
一般財団法人民際センター

ラオスの村を訪問しませんか？
11月13日(日)「ラオス国際交流の旅」参加者募集中！

― 関西・福岡発もあります!! ―

出発日：11月13日(日)
訪問地：ラオス カムアン県(民際センターの奨学生がいる村です)
旅行代金：152,000円(26歳以上の方)・137,000円(26歳未満の方)
※燃油サーチャージを除く ※出発時26歳未満の方限定ユース料金

日付	スケジュール	宿泊
11/13	成田・関西・福岡(10:00~11:00)発→ ベトナム乗り継ぎ→ビエンチャン(17:30~18:00)着	ビエンチャン泊
11/14	ビエンチャンからカムアン県へ移動	カムアン(ゲストハウス)泊
11/15	子どもたちと交流 夜は伝統的なバーシー (歓迎の儀式)実施	カムアン(ゲストハウス)泊
11/16	ビエンチャン小学校にて子どもたちと交流	カムアン(ゲストハウス)泊
11/17	午前：小学校にて子どもたちと交流 午後：お別れ会 ビエンチャンへ	ビエンチャン泊
11/18	朝食後自由行動 (ビエンチャン市内観光のオプショナルツアーもあります) ビエンチャン(18:45)発→ハノイ(19:45)着	機中泊
11/19	ハノイ(00:05~00:30)発→ 成田・関西・福岡(06:40~07:05)着	

ご予約・お問い合わせ

株式会社エイチ・アイ・エス　新宿本社営業所
エコ、ボランティア、スタディツアーデスク
Tel：03-5360-4810　Fax：03-5360-4733
http://www.his-j.com/tyo/volunteer/index.html

民際センターの

マンスリー・サポート・プログラム

国による「国際」支援ではなく、
「民と民」との結び付きによる支援。
それが「民際」です。

月々1,000円～の継続支援（1日あたり約33円～、ペットボトル1本分にも満たない小さな支援）で、すべての子どもたちが夢や希望を持って学校に通い、教育を受けることができるような社会作りを目指す民際センターの活動をサポートするプログラムです。

http://www.minsai.org/donations/monthly

～助け合いの連鎖～

「タイの子どもたちの支援を続けます」

陸前高田市立第一中学校

東日本大震災により壊滅的な被害を受けた岩手県陸前高田市を8月初旬に訪問しました。街のほとんど全てが流されてしまったこともあり、瓦礫撤去が進んでいました。その跡地には雑草が生い茂り、ここに人々の生活があったとは思えない光景に、言葉を失いました。高台に位置するため中心的な避難所となった陸前高田市立第一中学校は、97年から書き損じハガキ収集によってタイの子どもたちへダルニー奨学金を提供してきました。

震災直後、これまでの恩返しとして、タイ事務所が募金活動を行い、集まった約130万円を4月に同校へ届けました。そのお金は、本来であれば家庭から集められる学校集金（生徒会活動資金や図書室の運営費、生徒手帳代など）として活用いただくこととなり、家庭の負担軽減につながりました。同校の先生は「生徒は寄付の大切さを実感していると思う。今後はお礼や感謝の気持ちを発信していきたい。引き続き書き損じハガキを集め、タイの子どもたちの支援は続けていきます」と話してくれました。

復興に向けて歩み始めた今、他国の子どもたちへの支援活動に取り組む同校生徒の共感力とエネルギー。タイと日本で支援の連鎖が太く強く育っています。

希望の一本松と虹

サポーターズNOW!

ラオスの集い in 福岡 2011

本年１月に開設した在福岡ラオス人民民主共和国名誉領事館との共催で、7月9日（土）福岡市にて「ラオスの集い in 福岡2011」を開催しました。梅雨明けの厳しい暑さにもかかわらず約100名のご参加者のもと、第1部講演会では長きに渡り医療支援を行ってきた中島名誉領事（写真下）や沖縄・ラオス友好協会の活動報告、民際センターからは理事長・秋尾の講演「ラオスの教育 過去・現在そして未来」と事務局からの活動報告を行いました。「ラオスの子どもを支援していただいて嬉しい」と九州大学で勉強中のラオス人留学生も会場に駆けつけました（写真中）。また、この場でドナーの山里卓秀さんを世話人として「福岡ドナー連絡会」が結成されました。続いて第2部懇談会では、福岡県内のドナーの方々がそれぞれの活動を報告したり、今後は福岡で連携を取って行けることに心を強くした旨の発言が続きました。福岡県内には約140の個人・団体のご支援者がいらっしゃいます。連絡会発足により、皆様がより一層楽しく、長く活動していただけることを祈念いたします。

全国ドナー連絡会／今年は甲府市で開催！

自然豊かな山梨に集い、心ゆくまで語り合いませんか？

第1日目：2011年11月26日(土)13:00～17:00
（参加費：500円）
13:15～14:30　「特別講演」阿刀田 高氏
＊講演後はサイン会開催予定
15:00～17:00　「報告会」各地区連絡会
＊「ダルニープレート活用法コンテスト」開催―優勝連絡会には豪華景品贈呈！
（詳細は各連絡会に後日ご連絡します。ふるってご参加ください）
夜の部「スパランドホテル内藤」にて懇親会
（参加費：懇親会・入浴料5,500円、
宿泊の場合は全込みで10,500円）

第2日目：11月27日(日) 連絡会会議

会場：山梨英和中学・高等学校「チャペル」
申込先：民際センター　T:03-6457-5782
F:03-6457-5783　E-mail:info@minsai.org

福岡ドナー連絡会が発足

初めまして、福岡の山里と申します。福岡ドナー連絡会の発足にあたり幹事を引き受けさせて頂くことになりました。微力ではありますが、ドナーの皆様とともに民際センターの活動を支えていけるよう頑張りたいと思います。まずは、お互いの意見交換の場としてお茶会かランチ会を開かせて頂こうと考えています。ご協力よろしくお願いします。

連絡先：山里卓秀
FAX:092-863-7059　E-mail:nqmyr351@watch.ocn.ne.jp

「民際ブース」出店顛末

晴れわたった越後の空のもと、新潟市中心部で「新潟アースフェスト2011」が「アジアのエコ」をテーマに大型連休中3日間開催されました。要請を受けての「民際ブース」出店です。香りとほろ苦さで道行く市民を射止めようと「Cafe Lao」の試飲準備も万全です。今回の展示テーマは「エコなラオス学校建設」です。ベトナムからの留学生ヘルプもあり、加藤氏のエコな学校建設コンセプトを広報し、ダルニー奨学金支援に汗を流した2日間でした。
（新潟ドナー連絡会世話人　赤石隆夫）

ラオスク in 万代アースフェスタ

ラオスクールプロジェクトも万代アースフェスタに参加しました。学生が開発してラオスに届けた教材やラオス訪問時の写真展示、ラオス風しおり作り，ラオス衣装の試着、ラオス雑貨の販売，紙芝居塗り絵を行いました。お子さんからお年寄りまでたくさんの方々に組織や活動に対して関心・理解をもって頂け，多くの募金もお預かりしました。新ダ連のみなさんのご協力も頂き、ネットワークが広がって，大きな収穫のあった3日間でした。
（新潟県立大学３年・星野舞）

事務局活用リスト

事務局ではさまざまな資料やサービスを用意して、ドナーの皆様のお問い合わせやご要望にお応えしています。

※ご利用につきましては、以下の要領でご連絡願います。

地域で奨学金や図書セットを広める活動をしたい

①書き損じハガキ・未使用テレカの収集
②使用済みインクカートリッジの収集
③パンフレットまたはリーフレットの設置
④不要な本を集めてブックオフに送る
⑤募金箱を設置したい

お気軽にお電話またはメールでお問い合わせください。折り返し資料などをお送りします。また、ホームページでも紹介しておりますので是非ご覧ください。

奨学生や現地のビデオを見たい

DVDは現地情報満載の広報ビデオ(13分)。パネルを貸し出すこともができます。送料は負担願います。

個人でタイを訪問し、奨学生に会いたい

80円切手を貼った返信用の封筒をお送りください(メール可)。折り返し、資料をお送りします（3～5月と10月、学校はお休みのため訪問できません)。

タイの奨学生と文通したい

①手紙の翻訳
②タイの切手購入

①：タイ語→日本語に翻訳します。手紙の原本と80円切手4枚を同封して送ってください。
②：タイ切手セット（12回分1000円）の代金は郵便定額小為替か現金でお願いします。
80円切手を貼った返信用の封筒も同封してください。
※奨学生の氏名をカタカナで読みたい方は、電話、メール、ファックスでお問い合わせ下さい。

民際事務局でボランティアをしたい

PC入力、DTP経験者、事務作業など。電話またはメールで担当、関口までお問い合わせください。

奨学金の説明を聞きたい

事務局では随時無料説明会を行っています。参加希望の方は必ずご予約ください。

タイの奨学生にプレゼントしたい

80円切手を貼った返信用の封筒をお送りください（メール可)。折り返し、資料をお送りします。申し込み締め切りは10月28日(金)です。プレゼントは原則として中学生が対象です。

毎年忘れずに送金したい

お申し込みいただければ、自動振込用紙（ゆうちょ銀行）を無料で送付します（タイのみ)。

編集後記

6ページで紹介した藤沢実果さんは仕事を辞め、約1年間の世界1周旅行に出ました。報告会の参加者から「なぜ会社をやめる決断ができたのか？」「アフリカや中近東などで厳しい現実を見た後、これから何をしたいのか？」等の質問が出ました。参加者は26名で学生と20代後半から30代前半の会社勤め風の若者たち。藤沢さんの答えは大よそ以下の通りでした。「外国人の友人のレーサーがレース事故で死亡し、葬儀に600人の友人が集まりました。私はとても悲しかったのですが、葬儀で友人たちは『彼は自分の好きなことを精一杯やって死んだ。彼は自分の人生に後悔していないはず』と話し合っていました。その時、私も『後悔しないように、自分の好きなことをしよう』と思ったのです」「アフリカなどで知り合った子どもたちの支援活動をしたい。寄付を集める仕事を通じて社会に働きかけ、日本と世界をつなげる仕事をしたい」。後日、参加した女性からメールが届きました。「報告会での話、藤沢さんをはじめ、どの方もとても印象的でした。私もお手伝いさせていただきたいなと思い、ダルニー奨学金を支援しようと思います」。この日、世界中で支援を求めている人々と関わりをもちたいと真剣に考えている、たくさんの若者の熱気に触れて、私もエネルギーをもらいました。(冨)

一般財団法人
民際センター

ダルニー通信　第６３号　　２０１１年９月１日発行　　発行人：秋尾晃正
一般財団法人民際センター　〒162-0801 東京都新宿区山吹町337 江戸川橋東誠ビル5F
TEL：03-6457-5782　　FAX：03-6457-5783
Eメール：info@minsai.org　　ホームページ：http://www.minsai.org/
振替口座：００１５０－０－５７６６４
表紙：ラオス　　撮影：渡部 明浩

―紙面レイアウト協力―
吉田シャショク　福岡県大牟田市小浜町1-5-17　☎0944-51-8604

基礎を作るため、土壌を掘ります

基礎部分の補強作業

SPOT LIGHT

学校建設、着々と進んでいます!

現在、5か所で学校建設が進んでいます。
明るくて涼しく、きれいな学校で勉強できるのを、村の子どもたちは心待ちにしています。

学校の壁面に使用するブロック。赤土を固めて作成するため、焼く必要がありません。

10月から11月には上記のような校舎が完成予定です。

＊事務局移転のお知らせ＊

民際センター事務局は8月8日(月)に下記の住所に移転し、電話･FAX番号も変わりました。

新住所：〒162-0801 東京都新宿区山吹町337　江戸川橋東誠ビル5F
電話番号：03-6457-5782　　FAX番号：03-6457-5783

(新事務所は旧事務所から早稲田大学とは反対方向に500メートル歩いた、早大通りの対面の建物で、正面が都立山吹高校です。)